

恩に報ず — 出家得道 棄恩入無為眞実報恩者 — (二版)

心こころに湧わくは貪欲とんよくと

気き終しまを通とおせぬ瞋いかりなり

道理どうりを知らぬ癡おろかさも

無始むしの病やまいの貪瞋癡とんじんち

漏れもを尽つくして歩あゆむべし

三毒さんどく

未いまだ漏ろ尽じんは明あきらめざるも

一いつ生しょう参学さんがく大事だいじなり

育はぐくみ受うけて大過たいかな無なし

敬うやまい弥増いやます父母ふぼの恩おん

心こころに慚愧ざんきを抱いだきつつ

生いかさされ来きたるは有あり難がたし

有愧うぎの人は涅槃ひと ねはんあり
衆生しゆじよう・国主こくしゆの恩おん

法ほうを重おもくし恩愛おんない軽かろし

見佛けんぶつ聞法もんぽう大恩だいおんなれば

日日ひびの行持ぎようじに報謝ほうじやせん

有智し若聞おんすべ即能ほう信解しんげ

四恩しおん全すべて報ほうず

私わたくしに費つひやさざらん

宮城県大崎市 瑞川寺住職 木村謙文